

## ■ 札幌ふるさとの樹木 ■

### その9:オオバボダイジュ(大葉菩提樹)・シナノキ科

ボダイジュの名は、釈迦が悟りを開いたとして仏教の聖木とされるクワ科のインドボダイジュからきている。このインドの樹と葉の形がよく似ているシナノキ属の樹が、中国でボダイジュの代用品とされ、この樹がわが国の寺院などによく植えられるようになり、名前もボダイジュと呼ばれるようになった。

北海道，本州(中部以北)に分布する。肥沃な川沿や山の斜面などに多く生える。太い枝を低い所から出すことが多く、樹皮は灰褐色で縦長の浅い溝がある。花は両性花で7月から8月にかけて咲き、10月ごろ果実が成熟する。葉は、葉はガサガサしていて、葉脈のしわが目立つ。葉裏に星状毛が密生している。

樹皮等:灰褐色でところどころに灰色の帯状斑がある。縦長の浅い溝がある。太い枝を低い所から出すことが多い。



葉裏(北海道主要樹木図譜)